

平成28年度 市政懇談会 市長あいさつ

こんばんは。本日は、皆様お疲れのところ、この市政懇談会にお集まりいただきありがとうございます。とうございませう。

市政懇談会は2年に一度の頻度で開催しており、2年ぶりとなります。市政全般を説明したあと皆様との意見交換を予定しておりますので、よろしくお願ひします。また、幹部職員も揃って出席しておりますので、忌憚のない色々な御意見をお聞かせください。

■広域消防分遣所の建設〔10/7 白浜コミュニティセンター〕

白浜地域センターに隣接する公民館の取り壊しに着手しております。その後、その場所へ広域消防の分遣所を新たに建設する計画です。当初は長尾小学校跡地に予定していましたが、諸般の事情により、現在の場所へ移転、その場所に建設する計画で進めております。建設に関しては、来年度中というスケジュールで事業を進めていきます。

■バスロータリーの整備〔10/7 白浜コミュニティセンター〕

白浜コミュニティセンター南側、白浜地区にとって非常に重要な交通機関、拠点施設であるバスロータリーを新たに整備します。老朽化がかなり進んでいますので、民間事業者と一体となり、近いうちに工事に着手する予定です。

■「花の情報館」の指定管理事業者を公募中〔10/7 白浜コミュニティセンター〕

道の駅の「花の情報館」について、市が直接管理しているものを、指定管理「民間事業者の方で管理運営してみませんか」ということで現在事業者を公募しているところです。

管理者が変わることで、施設の使い勝手が変わるものではありません。民間事業者からの提案により、施設の有効活用が更に進むことを期待しています。

■全国消防操法大会のお礼〔10/19 千倉漁村センター、10/21 千倉保健センター〕

千倉の第3分団が10月14日の全国消防操法大会に出場、大勢の方に色々な支援をいただきました。一生懸命に消防活動に取り組み、2番員については最優秀個人賞をとることができました。大変名誉なことと思っています。

皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。

■広域のゴミ処理施設建設〔10/19 千倉漁村センター、10/21 千倉保健センター、10/24 和田コミュニティセンター〕

千倉地区で予定していた広域のゴミ処理施設建設について、経費をかけながら頓挫したことを心からお詫びいたします。

最近では、3市1町で進めようとしていた建設事業に対して、館山市がこの枠組みから抜きたいということで、この先の方向感もつかめなく大変申し訳ないと思っています。しかし、この地域にとってなくてはならない施設です。時間はかかりますが、少しでも早く整理、方向性を出してまいりたいと思いますので、御理解と御協力をお願いいたします。

【市政の現状と今後について】

■市政全般

地方創生を推進するため、市の総合戦略を定めました。その中で、将来にわたり市の人口を3万人に維持するという大きな目標を立てました。市の人口は、この10年で5千人減少し3万9千人となっており、この目標は非常にハードルが高いものだと考えています。市の人口は、このままいくと20年30年先には、3万人を割り込んでしまいます。

この目標を達成するために、若年層の人口を増やしていく必要があります、そこに市の予算を重点的に配分していく考えです。

市の予算は、合併による恩恵がなくなるなど今後は減少することが見込まれています。それでも若年層の人口増やすための施策に予算を振り向けていくには、他の分野の予算を削らなければなりません。予算を削られる分野では不満もあると思いますが、理解していただけるよう努力していきます。

■主な事業と財政状況

○若い世代に魅力ある街とするため、さまざまな面から子育て支援を行っています。

・子ども医療の助成

小学年3年生までだった子ども医療費助成を、平成28年8月から中学校3年生まで拡充しました。そのために市はこの事業に対し予算を約4千万円増し配分しました。

・特別支援員の配置

発達障害や様々な支援を必要とする子どもが増えています。きめ細かな対応ができるよう保育所、幼稚園、小中学校に特別支援員を配置し、教育環境の充実を図っています。これに市は8千5百万円の予算を費やしています。

・小学校放課後学習バウチャー交付事業

世界や日本中で貧困が学ぶ機会の格差となり、さらに貧困を生むといった状況が懸念されています。市内にもそれに近い状況があると考えており、小学校5・6年生の習い事を支援しています。

一年間の市の予算は1,024万円、世帯の所得に応じて習いごとにかかる月謝を補助するもので最高で7千円を市が負担します。

○地域産業を積極的に支援し、地域経済の活性化を図っています。

・中小企業新事業及び雇用創出支援事業

新分野への参入や新たに事業を展開する企業の設備投資と雇用経費を補助するもので、今年で6年目の事業です。

これまで、約30社が活用し、約100人の雇用が生まれています。

・中小企業人材育成事業

社員の人材育成やスキルアップを目的に実施する資格取得のための経費を補助するものです。

・再チャレンジ奨学資金貸付事業

起業や再就職を目指す人が、知識や技能を身につけるため、新たに就学する場合に奨学資金をお貸ししています。対象者は30歳以上60歳未満、最大で月額6万円、3年間の利用が可能で2百数十万円借りることができます。返済についても、市民となり市内で起業した場合は全額、就職の場合は2分の1が免除される制度となっています。

一旦は都会に就職したが事情でこちらに戻りたい場合、資格やスキルを得て起業や就職することを考えると思いますが、その際に役立ていただきたい事業です。

・有害鳥獣被害を防止

イノシシについては、抜本的な対策がとれていない現状ですが、引き続き捕獲と防護で被害防止に努めていきます。

○行政サービスの向上に取り組んでいます。

・住民票のコンビニに交付

マイナンバーカードを利用した住民票や戸籍証明書、印鑑証明書がコンビニで取得できるようになります。実施時期は、平成29年1月頃を予定しています。

○借金残高のうち市が負担する額は約31億円です。

市の借金残高は約290億円ですが、そのうち市が実際に自身で負担する額は約31億円です。260億円近いこの差額は、国が負担することになっています。

自治体の借金には色々なものがあり、合併特例債、過疎対策事業債など返済額の一部を国が補てんする有利なものを南房総市は活用しています。

○将来に備えた貯金を十分に確保しています。

合併から10年が経過し、地方交付税や合併特例債などの優遇措置の終わりが近づいています。市では歳入が減少することに備え、貯金を増やすよう努力してきました。

合併した平成18年に40億円程度だった貯金は、市政改革や事業の見直しなどにより、平成27年度末時点で224億円まで増やすことができました。

■水道料金の改定（水道事業を考える）

南房総市では、「水道料金の改定」言い方を変えると「水道料金の値上げをさせていただけないか」審議を始めています。水道料金の値上げは、市民お一人お一人に影響することなので、できれば値上げをしたくありません。しかし、財政状況が大変厳しくなっているので、値上げの審議をお願いしている実情です。今後は、審議会や議会の審議を経て、市民の声に耳を傾けながらこの問題に取り組んでいきたいと思いをします。

○市営水道と安房地域の水道料金

館山市と富浦、三芳エリアの三芳水道企業団とは水道の料金体系は同じです。鴨川市、鋸南町と比較した場合、南房総市の水道料金は一番安価となっています。

○市営水道の水需要推移

水の需要は毎年減り続けており、今後も減少していくことが見込まれます。これは市営水道の収入が減少することを意味しています。

○高料金対策事業に伴う一般会計負担分

水道事業は使用者から支払われる料金収入により、採算をあわせ運営することが基本です。しかし、多くの水道事業は赤字経営で、自治体からの補助金（赤字補てん）によって採算をあわせています。南房総市が一般会計から水道事業へ支出する補助金は4億円を超えており、県下1位の高額となっています。2位、3位の館山市といすみ市の金額は、いづれも2億数千万円で、南房総市が突出して高いことが分かります。

○南房総市一般会計将来推計

今後、合併による優遇措置がなくなるなど、市の収入が年々減少していくことが推計されています。それに伴い平成34年には、収支がプラスからマイナスへ転じると予想されます。その金額は、平成34年は8億5900万円、平成38年には16億6300万円に達すると試算しています。

このような厳しい財政状況で、一般会計から水道事業へ高額の補助金を出し続けることは、大変難しいと考えています。

○市営水道の経営状況の将来予測

水道の供給を安定的に持続していくには、不測の事態に備え10億円位の現金（資金）が必要だと考えています。現在は、それに見合った金額の資金を確保できていますが、料金改定を行わず、市からの補助金を1億4千万円減額、2億1千万円とした将来予測によると、平成36年で資金が枯渇すると試算しています。